

春化处理によるなばな「はるの輝」の早春どり作型

高品質なばな「はるの輝」は、晩生種のため通常の栽培では収穫始めが3月末から4月と遅く、需要期の供給を困難にしていた。このため、子葉展開時の苗を5、60日間15時間日長下で低温処理することにより、慣行栽培より収穫期が大幅に早まり、価格的に有利な2～3月どり作型を可能とした。

表1 早春どり作型

は種	春化処理期間	定植	保温開始	収 穫
8月上旬	9週間	10月上旬	11月上旬	1月中旬～3月下旬
8月下旬	9週間	10月下旬	11月上旬	2月上旬～3月下旬

〔春化処理法〕

200穴のセルトレイには種し、子葉展開時に低温処理をおこなう。低温処理の温度は5℃で、処理期間は60日間とする。

なお低温処理期間中は、1日15時間照明(2,000ルクス以上)とする。

10月上旬定植では、1月中旬から一定量の収穫が始まり、3月末までの収量は、10a当たり1,500kg水準である。

2～3月の収穫期の平均1本重は25g前後で品質は良好である。

なお、春化处理しない場合の収穫始めは3月下旬である。

表2 春化处理条件と抽苔及び収穫時期・収量

処理期間	は種日 (月日)	抽苔時期 (月日)	収穫始め (月日)	a当たり収量 (kg)
無処理	10月 1日	1月29日	3月26日	105.5
5週間	9月14日	1月10日	2月29日	182.7
9週間	8月17日	11月16日	1月21日	219.3
11週間	8月 3日	11月 8日	12月18日	230.3



早春どり作型を導入することにより、高品質なばな「はるの輝」の長期継続出荷が可能となり、産地拡大が図られる。

作期的に夏秋野菜との組み合わせが容易となり、施設の周年利用が可能になる。